

## 御茶の水界限を歩く

JR中央線 御茶ノ水駅 お茶の水橋口改札前 集合 JR中央線 御茶ノ水駅で解散予定。約4.8km

### 1. 御茶ノ水駅

- 1904 (明治37) 御茶ノ水～飯田町駅の開通と同時に甲武鉄道の駅として開業。
- 1906 (明治39) 鉄道国有法による甲武鉄道の国有化に伴い、国有鉄道の駅となる。
- 1908 (明治41) 昌平橋駅～御茶ノ水駅が開通。
- 1932 (昭和7) 総武本線が乗り入れ。この際、急行線（快速電車が走る線）と緩行線の「緩急接続」を考慮して、利用者の動線をも考慮した先進的かつ合理的な駅設計が行われた。現在までこの基本構造は変わっていない。
- 1954 (昭和29) 帝都高速度交通営団（営団地下鉄）丸ノ内線の駅が開業。
- 1987 (昭和62) 老朽化した駅舎の建て替えが計画され、ニコライ堂を模したデザイン案が選ばれたが、敷地が狭く工事が難しいなどの理由で、計画は実施されず、構造上・立地上の問題から現在もEV・エスカレータはない。
- 1999 (平成11) JR東日本の駅が関東の駅百選に選定される。
- 2011 (平成23) 線路上空に人工地盤を設け、改札内に連絡通路を新設しEVやエスカレーターを設置するバリアフリー整備工事と、御茶ノ水橋口駅舎および聖橋口の駅前広場機能の整備が始められた。
- 2019 (平成31) バリアフリー整備（EVとESの使用を開始）
- 2023 (令和5) 新しい聖橋口駅舎の使用を開始。駅前広場整備は2024年度中の完成予定。

**2. お茶の水橋** 1931 (昭和6) 完成。全長80.0m、幅25.3m、鋼製ゲルバー式桁橋。1890 (明治23) に鋼製トラス橋が架けられたのが最初。これが関東大震災で焼失したため架け替えられ、現在のものになった。

**3. 神田駿河台** (後述)

**4. 新お茶の水ビル・お茶の水サンクレール** 22F・R2F・B3F。高さ93m。1981 (昭和56) 竣工

**5. 紅梅坂** (こうばいざか) 名の由来は付近が紅梅町と呼ばれていたため。もとは埃坂 (ごみざか) と言われたが、維新後、淡路町の幽霊坂と併せて紅梅坂に改称された。1924 (大正13) の区画整理で本郷通りができ、幽霊坂とは別の坂になった。  
『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』 pp.020-021

**6. ニコライ堂 (東京復活大聖堂)** 日本初にして最大級の本格的なビザンティン様式の教会建築。ニコライ堂の名は日本に正教会の教えを伝えたロシア人修道司祭・聖ニコライ (1836-1912) に因む。駿河台の高台に位置し界限の景観に重要な位置を占めた。原設計は、ロシア工科大学教授で建築家のミハイル・シチュールポフ。実施設計は、お雇い外国人建築家ジョサイア・コンドル。煉瓦造・石造でギリシャ十字型の平面形をし、中央に八角形ドーム (高さ35m) を頂く。屋根は銅板葺。重要文化財。

1891 (明治24) 竣工。(1884 (明治17) 起工)

1923 (大正12) 関東大震災で煉瓦造の鐘楼が倒壊してドームを破壊し、この時に発生した火災によりイコノスタシスなどを含めた内部や木造部分の多くが焼損。

1929 (昭和4) 岡田信一郎の設計により、RC・鉄骨などで構造補強と修復が行われ (1927~29)、鐘楼が低く抑えられるなど、外観が一部変更された。

2003 (平成15) 部分的な構造補強を含む本格的な修復工事が完了。

**主教館** 1874 (明治7) 頃のもの 煉瓦造 関東大震災で2階が崩壊したため平屋に変更。東京最古の煉瓦造といわれる。

**八端十字架** 上部の線はハリストス (キリスト) の罪状書き (「ユダヤ人の王・ナザレ人イエス」と書かれた札) を表し、下部の斜線は、磔られた十字架にあった足台を表している。下部の線が斜めなのは、ハリストスとともに磔刑に処された2人の盗賊の死後を表現している。一人の盗賊はハリストスを罵り、もう一人はハリストスを救世主と認めて楽園 (天国) を約束されたという伝承に基づき片側が上げられている。また、上部の罪状書き部分がない**六端十字架**も存在する。

**7. 聖橋** 1927 (昭和2) 竣工。設計・デザインは山田守、成瀬勝武。関東大震災後の震災復興橋梁のひとつ。

名称は東京市が公募し、湯島聖堂とニコライ堂を結ぶことから「聖橋」と命名された。表現派と呼ばれる、モダニズム直前のスタイルを持つ放物線を描く鉄筋コンクリートアーチ橋で、船から見上げた時に最も美しく見えるようにデザインされている。 全長92.5m、幅22.0m。

**北詰西側の階段** 36段 (下から16・20段) 幅約5.0~7.4m 高低差5.4m 長さ約18m  
蹴上15cm 踏み面45cm 傾斜18°

## 8. 湯島聖堂 儒教に傾倒した5代将軍徳川綱吉によって建てられた。本来は孔子廟。国史跡（大正11年指定）。

- 1690（元禄3） 林羅山が上野忍が岡（上野公園）の私邸内に建てた孔子廟「先聖殿」が移築され、将軍綱吉により「大成殿（たいせいでん）」と改称され、付属建物を含めて「聖堂」と呼ばれた。林家の学問所もここに移転。
- 1704（宝永元） 入徳門（にゅうとくもん）建造。聖堂内で唯一の木造建造物として現存。
- 1797（寛政9） 林家の私塾が、幕府の昌平坂学問所（昌平黌）となる。「昌平」は、孔子が生まれた村の名で、そこから「孔子の諸説、儒学を教える学校」が地名にもなった。以降、聖堂は大成殿を指すようになった。
- 1871（明治4） 閉鎖。教育・研究機関としての昌平坂学問所は、後の東京大学、東京師範学校（筑波大学）や東京女子師範学校（お茶の水女子大学）の源流ともなったことから、近代教育発祥の地と云われる。一時は、構内に文部省、国立博物館も同居。学問所の跡地は、現在、その大半が東京医科歯科大学湯島キャンパス。
- 1923（大正12） 関東大震災で大成殿を含む多くの建物が焼失。
- 1935（昭和10） 現在の大成殿、仰高門（ぎょうこうもん）、杏壇門（きょうだんもん）などが竣工。設計：伊東忠太、RC造。
- 1975（昭和50） 中華民国台北ライオンズクラブが孔子像を寄贈。世界最大。
- 1986～93（昭和61～平成5） 建物の保存修理工事が文化庁により実施される。

**大成殿** 建物が黒い理由には、神田明神と区別するため、重厚さを示すためなど諸説がある。元禄期に最初の建物が建てられたときは朱塗りだったが、寛政の改革で朱子学が官学となった後に黒漆塗りに変えられたという。現在はエナメル黒塗装。鴟尾は通常は虎頭魚尾だが、ここでは龍頭魚尾で頭から水を噴き上げている。鬼伏頭（きぎんとう）という想像上の魚神で、水の神として火を防ぐ。流れ棟にあるのは、鬼龍子（きりゅうし）。狒犬に似た姿で、顔は猫科の動物に似て、牙を剥き、腹には蛇や龍のような鱗がある。想像上の霊獣で、孔子のような聖人の徳に感じて現れるという。普通は鬼瓦が置かれるが、ここでは霊獣になっている。堂内には震災で焼け落ちた江戸期の鬼伏頭と鬼龍子が展示されている。

**杏壇門への階段** 23段 高低差3.5m 長さ15m 幅6.4m 蹴上15cm 踏み面65cm 傾斜13°

**聖橋門内の階段** 29段（下から10・19段） 高低差2.7m 長さ7.6m 幅1.8m 蹴上14cm 踏み面40cm 傾斜19°

## 9. 昌平坂（しょうへいざか） 昌平坂学問所（昌平黌）周辺の三つの坂は、皆「昌平坂」と呼ばれていた。

## 10. 相生坂（あいおいざか） 別名：昌平坂。神田川対岸の駿河台の淡路坂と並ぶので相生坂といわれる。

## 11. 湯島坂 湯島聖堂は、相生坂・昌平坂・湯島坂の三坂に三方を囲まれている。

## 12. 天野屋 江戸時代後期の1846（弘化3）に創業。店の地下6mに創業当時からある土室（むろ、区指定有形文化財）で作られる米糘で作った甘酒で知られる。江戸時代、湯島台地では100軒以上の糘屋が土室を作り糘を製造していたというが、現在は天野屋だけ。店舗は昭和20（1945）年3月の空襲で焼失したため、現在の建物は戦後のもの。

## 13. 神田明神（正式名「神田神社」） 神田・日本橋・秋葉原・大手町・丸の内など108か町会の総氏神。

730（天平2） 武蔵国豊島郡芝崎村（現在の大手町）に入植した出雲系の氏族が、大己貴命（おほなむち：大国主の別称）を祖神として祀ったのが始まり。神田はもと伊勢神宮の御田（おみた＝神田）があった土地で、神田の鎮めのために創建され、神田ノ宮と称した。

935（承平5） 敗死した平将門の首が京から持ち去られて近くに葬られ、将門の首塚は東国の平氏武将の崇敬を受けた。嘉元年間（1303～06）に疫病が流行すると、将門の祟りであるとして供養が行われ、社の相殿神とされた。

江戸時代、江戸城増築に伴い現在地に遷座。江戸城の鬼門除け、江戸総鎮守として尊崇された。

神田祭の山車は将軍上覧のために江戸城中に入ったので「天下祭」とも言われ、江戸三大祭りの一つと言われる。

**社殿** 江戸初期に豪華な桃山風社殿が、また1782（天明2）には権現造の社殿が造営されたが、関東大震災（1923）で焼失。その後、1934（昭和9）にSRC造で再建（設計 大江新太郎・佐藤功一）された。屋根は軽量化のため、内部は鉄骨組で屋根面をRCとしている。このため東京大空襲（1945）では本殿・拝殿などは焼失を免れた。国登録有形文化財

**随神門** 総檜造りで1975（昭和50）に再建。門内の像は松下幸之助が奉納したもの

**神田明神文化交流館** 2018（平成30）完成 4F・B1F 耐火木造FRウッド（純木質耐火集材）

設計：鹿島建設、乃村工藝社（内装）、ランドスケープデザイン（外構）

**銭形平次の碑** 野村胡堂の代表作「銭形平次捕物控」の銭形平次（架空の人物）が明神下の長屋に住んでいたという設定から。

## 14. 神田明神裏参道 斜面に対して少し浮いた形で建設された新しい階段。手摺に蛍光灯照明が設置されている。

72段（下から4・12・12・4・20・5・15段） 幅1.7/2.4m 長さ約20m 高低差約12m

蹴上17cm 踏み面27cm 傾斜32°

## 15. 新妻恋坂（しんつまごいざか） 神田明神裏、妻恋坂の南側の坂道。

- 16. 明神男坂** 天保年間に神田の町火消4組が石段と石灯籠を奉献した。眺めがよいことから、毎年1月と7月の26日に観月（夜待ち）がおこなわれた。又、当時の江戸湾を航行した船の灯台の役割も果たしていたといわれる。  
「東京の階段」p.166  
68段（下から4・17・8・14・14・11段） 幅約6.4m 長さ約19m 高低差約12m 蹴上17cm 踏み面31cm 傾斜29°
- 17. 明神新女坂（明神女坂）** 江戸期には男坂の北側に女坂があったが、現在は無く、神田明神のWebsiteでは女坂はないことになっている。しかし、くの字型のやや狭い道は女坂的で、自治体内でも女坂として扱われている模様。  
「東京の階段」p.136  
75段（下から20・14・21・20段） 幅2.5m 長さ約25m 高低差13.5m 蹴上18cm 踏み面31cm 傾斜30°
- 18. JR総武線 松住町架道橋** 1932（昭和7）架橋。鋼ブレーストリブ・タイドアーチ橋（下路、1スパン）、全長72m。  
製作：東京石川島造船所。鉄道橋としては日本で最初のタイドアーチ橋。
- JR総武線 神田川橋梁** 1932（昭和7）架橋。鋼プレートガーダー橋（上路、2スパン）、全長56m。製作：横河橋梁。  
ハの字の形をした独特のラーメン橋脚が特徴の橋。
- 19. 昌平橋** 1923（大正12）架橋（架橋は関東大震災の直前）。昭和5（1930）に改修が行われている。昌平橋の名称は、昌平坂学問所に由来。簡素だが力強いデザインのアーチ橋で、モダニズムの影響を感じられる親柱が特徴的。手摺には波型の意匠が施されている。千代田区景観まちづくり重要物件。
- 20. mA Ach ecute（マーチエキュート神田万世橋）** 旧万世橋駅の遺構を残しつつ商業施設としたもの。  
旧駅の一部でもある万世橋高架橋のレンガアーチ下部を店舗等にし、また、旧駅のプラットホーム部分をデッキとして整備し、旧駅の二つの階段からホームに上れるようにしている。ホーム部分にはガラスに囲まれた展望カフェ「N3331」が造られ、中央線がすぐ両脇を行き交う。
- 1912階段** 32段（下から14・18段） 1912（明治45）の駅開業時に造られた階段。鉄道博物館（後の交通博物館）時代には、ホームから博物館に直接入館できる特別来館口として利用された。
- 1935階段** 42段（下から12・7・11・12段） 鉄道博物館の新館建設に伴い、1935（昭和10）に新たに設置された階段。駅休止まで使用された。
- 旧万世橋駅** 当初は中央本線のターミナルとして、またここから両国駅方面への総武線の敷設計画をも見据えたものとして造られた駅。駅前には広場が設けられ、日露戦争の英雄である廣瀬武夫と杉野孫七の銅像が建てられた。東京市電が駅前を走り、多くの人で賑わい、大正時代に最盛期を迎えた。
- 1889（明治22） 甲武鉄道が立川－新宿間を開通させ、その後、次第に都心への延伸を進めていった。  
1906（明治39） 甲武鉄道が国有化される。  
1912（明治45） 万世橋駅開業（設計：辰野金吾）。御茶ノ水の東側にあった昌平橋駅（1908年開業）は廃止。  
1919（大正8） 万世橋－東京間開通、神田駅開業。中央本線の起終点が東京駅になり役割が縮小した。  
1923（大正12） 関東大震災で初代駅舎焼失。  
1936（昭和11） 東京駅から鉄道博物館が移転、万世橋駅に併設される。RC・3F（後年4Fを増築）。  
1943（昭和18） 万世橋駅営業休止。駅舎は後の交通博物館部分を除いて取り壊された。  
1946（昭和21） 鉄道博物館が**交通博物館**に名称変更。  
2006（平成18） 交通博物館閉鎖。  
2013（平成25） 交通博物館跡地にJR神田万世橋ビルが竣工。mA Ach ecute（マーチエキュート） 神田万世橋開業。
- 中央線 万世橋－東京間の高架橋** 日本初のRC造の鉄道高架橋。御茶の水寄りとの景観上の統一を図るため、表面に煉瓦タイルを張っている。また外濠を渡る橋は当時のRC造アーチ橋としては最長の38.1mで、表面は花崗岩の石張り、四隅に親柱を建て、要石には動輪をデザインしている。
- 万世橋高架橋** 万世橋駅部分の煉瓦アーチ橋、全長111m。1912（明治45）竣工。アーチの直径は約7m。煉瓦は、壁面がイギリス積み、アーチリングはフランドル積み。万世橋駅が当初はターミナル駅だったことから、高架橋にも装飾が施され、アーチ間にメダリオン（レリーフ調の銘板）、神田川に面した側のアーチ脚部には花崗岩の隅石が使われている。
- 万世橋架道橋** 中央線が中央通りを跨ぐ場所に架けられた鉄道橋。1930（昭和5）架橋。製作：横河橋梁（1928年）。御茶ノ水－神田間のカーブ区間にあるため、鋼鉄の橋自体がカーブしている。東京－万世橋間の開通当初の橋（1919年架橋）は直線状で、二つの桁を屈折させて繋ぎ、その上にカーブした線路を敷いていたが、架け替えの際にカーブ橋に替えられた。
- 昌平橋架道橋** 1908（明治41）架橋。長さ44.2mの鋼鉄橋。中央本線が昌平橋駅から万世橋駅まで延長された際、昌平橋駅－万世橋駅間で架橋されたもの。1904（明治37）にドイツのハーコート社（Harkort'sche Fabrik）で製造された。

**21. 万世橋** 1930 (昭和5) 竣工のRC造アーチ橋。アールデコ調の親柱が特徴的。震災復興橋梁の一つで、直下を走る銀座線と一体で作られている。千代田区景観まちづくり重要物件。

**22. 淡路坂** (あわじが) 別名：相生坂、大坂、一口坂。坂の上に太田姫稲荷と鈴木淡路守の屋敷があり、そこから町名、坂名がついたといわれる。一口坂は太田姫稲荷が一口稲荷とも呼ばれていたため。大坂は大きな坂という意味。

**紅梅河岸高架橋** 1908 (明治41) 竣工。煉瓦アーチ橋 全長42m。淡路坂に沿って、御茶ノ水駅の東側まで続く。紅梅河岸という名は、かつてこの付近に同名の河岸 (船着場) があったことに由来する。

**23. WATERRAS (ワテラス)** (淡路町二丁目西部地区北街区再開発) 2013 (平成25) 竣工 S造・一部SRC+RC

**タワー棟** : 41F・R1F・B3F 高さ164.8m オフィス・住宅 (20~41F、333戸 (分譲253、地権者80) )

**アネックス棟** : 15F・R1F・B2F 高さ70m 店舗・オフィス・学生賃貸用住宅 (14~15F、36戸)

ワテラスの名は、1) 住民、学生、就業者が担い手となったコミュニティの「輪を照らす」街づくり、2) ワ+テラス (和のモチーフを採り入れた段丘状の敷地形状)、3) WATER (水) +TERRA (地球) の三者から来ているという。

また、ANNEXの最上部には36戸のワンルームマンションが造られている。家賃は相場の7割程度だが、代わりに地域活動への参加が義務付けられている。

**アトリウム下の階段** 52段 (下から17・15・20段)

**公開空地内の蛇行階段** 42段 (下から16・10・16段) **公開空地内の直線階段** 49段 (下から12・13・13・11段)

**24. 新坂** (しんざか) 明治維新の後、観音坂と紅梅坂の間に新たに開かれたため。

**25. 高島邸** 昭和初期 (1930年頃) 竣工。伊勢丹の初代社長、小菅丹治の隠居処として建てられた近代和風住宅 (千代田区景観まちづくり重要物件)。増改築はほとんどなく、原型をよく留めているという。屋根は日本瓦・銅板葺き、外壁は板張り、部屋数12。敷地を囲む塀は、石垣の上に板と漆喰塗りの壁をもち、一枚板でつくられた門戸の構えも重厚。当時、伊勢丹は神田旅籠町 (外神田1丁目) にあった。

**名倉病院** 駿河台の名倉病院は、足立区千住の名倉医院の第5代名倉謙蔵が、1931 (昭和6) に設立したもの。

旧病院は1931 (昭和6) 竣工、RC・3F。2003 (平成15) 解体。玄関部分は新ビルの玄関まわりにイメージ再現されている。

**御茶ノ水NKビル** 1Fは名倉クリニック、2~13Fはオフィス、14~17Fは賃貸住宅 2006 (平成18) 完成。

**26. 幽霊坂** (ゆうれいざか) 樹木が鬱蒼として昼でも静かだったためこの名が付いた。関東大震災前までは紅梅坂と一続きだったが、1924 (大正13) の震災復興土地区画整理の際、途中で本郷通りが通されたため、紅梅坂と幽霊坂に分かれた。

『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.020-021

**御茶ノ水ソラシティ** 23F・R2F・B2F、高さ約110m、オフィス、学校、集会場、店舗、展示場。2013年竣工。

同所は御茶ノ水セントラルビル (旧日立御茶ノ水ビル (日立製作所本社)、1983竣工・2010解体。20F・B3F) の跡地。

Safety & Sustainability (安全&持続性)、Open-Space (開放感あふれる空間)、Landmark (お茶の水のランドマーク)、Access (優れたアクセス性) の頭文字を取ってSOLA Cityとなった。

**Gallery蔵** 書籍商の蔵として1917 (大正6) に上棟。その後「淡路町画廊」として親しまれた蔵を再開発に際して移築復原。

## 日本大学理工学部

1889 (明治22) 日本大学の前身、日本法律学校が創設される。

1903 (明治36) 日本大学に改称。

1920 (大正9) 高等工学校 (理工学部の前身) 設置。

1926 (昭和1) 医学科付属駿河台病院を開設。

1928 (昭和3) 工学部 (現在の理工学部) を設置 (高等工学校を昇格)。

1958 (昭和33) 工学部に物理学科を増設し理工学部と改称。

2003 (平成15) **駿河台新1号館**竣工。日本大学は現在、学生数、学部数、学科数、キャンパス数ともに国内最多。

- 27. 日本大学理工学部 駿河台キャンパス** 駿河台に9棟ある校舎のうち、ニコライ堂南側の6棟を解体し、ツインタワーを建設する計画が進められている。道路南側は既に整備が進み、今後は北側の3、4、7号棟と本郷通り沿いの大学が取得した民間ビルを解体し、跡地には北棟（図書館、レストラン、ミュージアム、広場を併設）を建設し、両棟をブリッジで繋ぐ予定。
- 駿河台校舎 タワー・スコラ（南棟）** S造・一部SRC造 18F・B3F・R1F 高さ82.4m 設計：梓設計 2018（平成30）竣工  
6号館（1961竣工、2014解体）、9号館（1972竣工、2014解体）の跡地に建てられた新校舎。  
東側の5号館（1959竣工、2018解体）の跡地は公開空地。
- 2号館（1939） 3号館（1938） 4号館（1952） 7号館（1967） 8号館（1967）**

- 28. 雁木坂（がんぎざか）** 昔は急坂で、雁木（木材を梯子状または階段状に組んだもの）があったことから。

**日本大学歯学部／附属歯科病院**

- 1916（大正5） 東洋歯科医学校が創立  
1922（大正11） 東洋歯科医学校が日本大学と合併し、日本大学専門部歯科となる。  
1947（昭和22） 日本大学歯学部設立  
1964（昭和39） 日本大学歯科病院開設  
2018（平成30） 駿河台日本大学病院の跡地に本館を建設、新病院を開院。  
2022（令和4） 歯学部2号館の敷地を合わせて、歯科病院の機能を持った歯学部新校舎（7F・B2F）が竣工。

- 29. 池田坂（いけだざか）** 別名：唐犬坂、仲坂 江戸期に坂のわきに池田氏という旗本の屋敷があったことから。標石には仲坂と記されている。別名の唐犬坂は、昔、池田市之丞という屋敷で唐犬が飼われていたという話から。

- 30. 三井住友海上駿河台ビル** 中央大学があった場所に建てられたもので、建設時は大正海上火災本社だった。  
25F・B3F・R1F。高さ103.5m。1984（昭和59）完成。

北側に1988（昭和63）完成の低層棟（三井住友海上別館・新日本証券が入居）があったが、2009年に解体。都市再生特別地区制度により容積率等の緩和を受けた、三井住友海上駿河台ビル新館（23F、高さ104m）が2012年に竣工した。

- 31. 甲賀坂（こうがざか）** 周辺が甲賀町と呼ばれていたことから。甲賀町の町名は、昔、甲賀組の者が多く居住していたからとも、光感寺という寺があった場所だったためともいわれる。

- 32. 日本大学病院** 主婦の友社所有だったお茶の水スクエアB館・C館を日大が取得し、新病院を建設した。  
2014（平成26）竣工・開院。RC造、11F・B2F。

- 33. 文坂（ふみざか）** 明治大学前の明大通り。駿河台下交差点からお茶の水駅に上る。名称由来不明。

**34. 日本大学法務研究科（お茶の水スクエアA館）** 千代田区景観まちづくり重要物件

- 1925（大正14） 主婦の友社としてRC・3Fのオフィスビルが建設される。設計：W.M.ヴォーリズ  
1987（昭和62） 旧建物の道路側壁面を残して建て替え。高層棟を増築（設計：磯崎新）。お茶の水スクエアA館となる。主婦の友社とその他テナントが入居。また室内楽専用のカザルスホールを併設。  
2002（平成14） 敷地所有者の主婦の友社等が日本大学へ譲渡。2004年に日大大学院法務研究科の建物となる。  
2010（平成22） 3月末カザルスホール閉鎖。

**35. 明治大学**

- 1881（明治14） 岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の青年法律家3人が明治法律学校を設立。  
1886（明治19） 現千代田区神田駿河台一丁目に移転。  
1903（明治36） 明治大学に改称。  
1932（昭和7） 明治大学記念館竣工。RC+SRC・4F（リバティタワーに建て替え）  
1998（平成10） **明治大学リバティタワー**（創立120周年記念館）完成 地上23F・塔屋1F・地下3F、高さ119.47m。  
岸本辰雄記念ホール（リバティタワー23F）創立者、岸本辰雄の業績などを記念するホール。  
学生食堂（スカイラウンジ暁・17F、学外者も利用可能）  
2004（平成16） **アカデミーコモン**完成。ロースクール法科大学院などを開設。B1Fには博物館・阿久悠記念館がある。  
2013（平成25） **グローバルフロント**完成。地上17F・地下1F。人文・社会系の大学院、研究・知財戦略機構などが利用。

- 36. 吉郎坂**（きちろうざか） 明治大学総長を務めた商学博士佐々木吉郎に因む。江戸期には胸突坂と呼ばれていた。
- 37. 山の上ホテル** アール・デコ調のクラシカルな内外装を残すことから、太平洋戦争以前の日本の名建築の一つにも数えられるクラシックホテル。GHQ接収時代にアメリカの女性兵士・軍属の間で愛称となっていた「Hilltop」がホテル名の起源で、これを経営者の吉田が「山の上」と意識したことによる。後年増築が行われたものの、2009年時点でも総室数75室と小規模ながら、瀟洒なしつらえと行き届いたサービスで知られる。出版社の密集する神田に近いので、作家の滞在や缶詰に使われることが多く、文人宿として川端康成、三島由紀夫、池波正太郎などが定宿としていたことでも知られ、近年では伊集院静も利用している。周辺の高層化により目立たなくなっているが、高台に立地し、シンボリックな塔をもつため、地域のランドマークになっている。千代田区景観まちづくり重要物件。
- 1936（昭和11） 財団法人日本生活協会の依頼により「佐藤新興生活館」として完成。RC・5F。設計：W.M.ヴォーリス。戦時中は帝国海軍に接収された。
- 1945（昭和20） GHQにより接収。GHQ陸軍婦人部隊の宿舎として利用された。1952（昭和27）接収解除。
- 1954（昭和29） 山の上ホテルとして一般向けに開業。
- 1980（昭和55） 構造体を残しつつ宴会場、レストラン等を増築。客室を改修。
- 2024（令和6） 2月13日で休館予定。再開方針等は未定。
- 38. 錦華坂**（きんかざか） 名称は坂下に錦華小学校があることから。この坂も帝都復興区画整理事業により新設。錦華小学校は夏目漱石が一時期学んだ学校としても知られたが、統合により1993年に廃校となり、お茶の水小学校となった。
- 39. とちのき通り**（マロニエ通り） 通り沿いにあった小さな喫茶店「マロニエ」は、しばしばフォークソング「学生街の喫茶店」（ガロ・1973）のモデルと言われた（駅近くにあった「丘」という店だという話もあった）。だが、作詞の山上路夫は、「この少し前にパリに行き、そこで思いついた「学生街」というフレーズと、パリのカフェをイメージした」と後年語っている。またボーカルの大野真澄は早稲田あたりの喫茶店をイメージしていたという。
- 文化学院** 1921（大正10）、西村伊作により各種学校として創立。2018（平成30）閉校。1937（昭和12）完成の4階建て校舎は、アーチ型入口と蔦の絡まる外壁で知られたが、老朽化に伴い2006年にアーチ部分を残して解体。2008年に14階建ての新校舎が完成した。
- 40. 駿河台男坂** 女坂同様、1924（大正13）関東大震災後の帝都復興区画整理により造られた。ステップは安山岩。73段（下から39・34段） 幅4.0m 長さ約25m 高低差13.1m 蹴上18cm 踏み面33cm 傾斜29° 「東京の階段」p.14
- 41. 猿楽町**（さるがくちょう） （後述）
- 42. 猿楽町町会詰所** 1930年頃竣工 RC 猿楽町駐在所として建設され、現在は町会の詰所として利用されている。
- 神田女学園高校・中学校**
- 1890（明治23） 神田猿楽町で神田高等女学校として創立。
- 1935（昭和10） 猿楽町に完成したRC・3Fの校舎で授業開始。
- 1950（昭和25） 神田女学園中学校・高等学校に改称。
- 2008（平成20） 校舎の建て替え完了。
- 43. カトリック神田教会** 国登録有形文化財
- 1874（明治7） パリ外国宣教会の司祭たちが、外国語を教授するラテン学校を母体として布教活動を行い聖堂を開く。
- 1928（昭和3） ロマネスク様式をベースにしたRC造の現在の聖堂が竣工。設計：マックス・ヒンデル（スイス人）
- 1995～97（平成7～9） 堂内のステンドグラスを新調。祭壇中央正面は細川晴美 作、左右14面はポーランドのヴィトラージュ工房 作。
- 44. 駿河台女坂** 1924（大正13）関東大震災後の帝都復興区画整理により造られた。東側の男坂と一対をなす。男坂が一直線の急坂であるのに比して、中途に踊り場が2ヶ所あるので女坂と呼ばれる。階段部分の傾斜は男坂と同じ。石段は安山岩。82段（下から42・27・13段） 幅3.8m 長さ約30m 高低差14.7m 蹴上18cm 踏み面33cm 傾斜29° 「東京の階段」p.16

#### 45. アテネフランセ

- 1913 (大正2) 東京帝国大学講師ジョゼフ＝コットが、東京外国語学校に「高等仏語」の教室を設置し、講義を始める。  
 1914 (大正3) 同校の私設の教授施設を「アテネ・フランセ」と命名。  
 1962 (昭和37) 現校舎新築。設計：吉阪隆正+U研究室 (1963年に校舎増築)  
 2008～ U研究室監修の下で耐震補強工事を実施。

46. 皂角坂 (さいかちざか) 昔、皂角の木が多くあったためという。サイカチは野山に自生する枝にとげが多い落葉高木。

#### 【町名など】

**御茶の水** 江戸時代、付近一帯は大名屋敷地。現在は、明治大学、東京医科歯科大学、順天堂大学などの大学や、専門学校、予備校が集まる学生街として知られ、また神田明神、湯島聖堂、ニコライ堂等を始めとする宗教施設、有名病院等が多数存在。更に、国内最大の書店・古書店街、楽器店街、スポーツ店街などが立地する。古くは北側の本郷台（湯島台）と南側の駿河台が一続きで「神田山」と呼ばれていたが、2代将軍徳川秀忠の時代に、水害防止用の神田川放水路と江戸城の外堀を兼ねて堀割が作られ、現在のような溪谷風の地形が形成された。同じ頃、北側にあった高林寺から泉が出て、この水を将軍のお茶用の水として献上したことから、御茶ノ水と呼ばれるようになったといわれる。雅称として「お茶の谷」という意味の「茗溪（めいけい）」という呼び名もあり、周辺にこれを冠した通りや商店がある。

**神田** 神田（かんだ、しんでん）は一般に、神社の祭祀などの運営経費にあてる領田（寺社領）のこと。東京の神田も、もと伊勢神宮の御田（おみた＝神田）があった土地

**神田淡路町**（かんだあわじちょう） 鈴木淡路守の屋敷があったことからついた町名といわれる。

**神田小川町**（かんだおがわちょう） このあたりに清らかな小川が流れていたからとも、「小川の清水」と呼ばれる池があったからともいわれる。

**神田須田町**（かんだすだちょう） 周辺は江戸時代以前から須田村と呼ばれており、江戸期に須田町になった。もともと川沿いの砂洲に拓かれた田圃・洲田であったことに由来する。

**神田駿河台**（かんだするがだい） 徳川家康の死後、江戸幕府が駿府の役人を住ませた事が地名の由来。下町を埋める為に台地を削ったため、今では台地でない所もある。

**猿楽町**（さるがくちょう） 「猿楽」は能楽の古称。観阿弥・世阿弥父子によって芸術性を高めた猿楽は、江戸幕府で儀式に用いる音楽・舞踊「式楽」となった。家康と縁が深かった観世座の家元観世太夫とその一座の屋敷が界隈にあったため、猿楽町と呼ばれたといわれる。

**外神田** 江戸府内から見て神田川（外濠）の外側を「外神田」、内側を「内神田」と称したことが由来で、1964（昭和39）の住居表示実施による町名変更の際、この名が新町名に採用された。それ以前には多くの町名が存在していたが、この際により減らされている。

**湯島** 江戸時代以前、海から見るこの地があたかも島のように見えたことからついたとされ、昔、周辺は湯島郷と言われていた。ただなぜ「湯」島なのかは諸説があり詳細不明。

#### 参考文献・参考サイト

- 『江戸東京坂道事典』石川悌二、新人物往来社、1998 『今昔東京の坂』岡崎清記、日本交通社出版事業局、1981  
 『東京の階段』松本泰生、日本文芸社、2007 『川の地図辞典－江戸・東京23区編』菅原健二、之潮、2007  
 明治大学Website、ニコライ堂Website、千代田区Website ほか  
 東京23区の坂道 <http://www.tokyosaka.sakura.ne.jp/index.htm> 坂学会 <http://www.sakagakkai.org/>  
 Tokyo Terrain 東京地形地図 <http://gridsapes.net/> ←資料のカラー地形図の出所。 他、Wikipedia  
 東京の階段 DB <http://blog.goo.ne.jp/tokyostair/> 都市徘徊Blog <http://blog.goo.ne.jp/asabata/>